

IRIS CLUB Information for our members

KŌEKISHA アイリスクラブ事務局



0120-333-838

〒522-0054 滋賀県彦根市西今町939番地 株式会社公益社

<http://www.shiga-koekisha.co.jp>

日本には昔から独特の色の呼び方がありました。vol.39のカラーは、「亜麻色」。亜麻はヨーロッパ原産の多年草で、日本には元禄時代に渡来しました。



多賀町蕎麦畑 9月下旬には満開になる

RE  
DISCOVER  
NIPPON

の〜んびり、近江戦国の旅⑥

## 彦根城天守と京極高次

慶長5年(1600)、井伊直政は、関ヶ原合戦後、徳川家康より、石田三成の居城佐和山城と十八万石を与えられた。彦根城と城下町の建設は、彦根藩主第二代直孝の時代、家康の命で天下普請で行われたことはよく知られている。周辺の城から部材(材木・石・瓦など)を転用

しながら建てられた彦根城はNHK大河ドラマ「江〜姫たちの戦国〜」とも無縁ではない。

『西の丸三重櫓』は浅井長政の居城小谷城天守を移築したと伝えられている。『彦根城天守』は、『井伊年譜』に「天守は京極家の大津城の殿守也」とあり、大津城(大津市)の天守を移築したものと考えられている。解体修理の際、天守完成が慶長12年(1607)頃であること、もともと5階4重の天守を移築したものであることが判明している。

京極高次は、浅井長政の姉・京極マリアの息子で、浅井三姉妹とは従姉妹の関係であり、「初」の夫である。

高次が秀吉から大津城六万石を賜ったのは、文禄4年(1595)。

関ヶ原合戦では、高次のところには、西軍からも東軍からも味方になるように勧誘があった。当初、西軍として北国へ出陣、しかし一転し東軍に寝返り、大津城で籠城戦を企てたのである。「初」もまた城内の女たちを必死で指揮したという。高次は9月8日より、毛利元康、立花宗茂らと猛攻を繰り返し14日に降伏。奇しくも関ヶ原の火蓋がきって落とされた日である。結果、高次は西軍一万五千を大津城に釘付けにすることに成功し、東軍の勝利に大きく貢献することになった……。「初」の無事を願う「淀殿」や「江」の苦悩はいかほどだったろうか……。

歴史を遡れば、彦根城は東軍に勝利をもたらした城であると共に、数々の戦国時代の記憶を留めている。秋が始まる頃、の〜んびりと旅してみたい場所のひとつである。

文・写真 北原元気



近江の伝統食「ふなずし」は、夏のダメージを癒す滋味豊かな食材としても知られている。伊勢幾さんでは、ふなずしが苦手な人のために、米だけで漬けたものと、練り粕(酒粕)を混ぜて漬けたものの2パターンを用意している。練り粕(酒粕)を混ぜて漬け込むと、においもやさしく、甘味のあるマイルドな味になり、初めて食べる人にも好評だという。

家庭で、ふなずしを薄く上手に切るにはどうすればいいのだろうか……。家庭用の包丁で薄く切るの難しい。柳刃包丁(刺身包丁)を使い、刺身を切るときのように押さずに引きながら切るのがコツだ。また、常温のふなずしはそのまま切ると形が崩れやすいので、冷やすとよい。家庭での場合は凍りかけたくらいのほうが切りやすいそうだ。

ふなずしとピッチリ冷えた辛口の冷酒の組み合わせは絶品。夏バテ解消!とほくそ笑み、うまく切れたふなずしを前に虫の声を愛でながら、ゆっくりと時間を過ごしたいものである。

協力 伊勢幾 彦根市錦町4番23号  
tel.0749-22-0063 <http://www.iseiki.jp/>



伝授

老舗の手技

## 戦略推進チーム

「戦略推進チーム」は、他の3チーム(品質、アフター、ブランド)を総合的にサポートし、お客様に満足していただけるご葬儀を、提供させていただく事をトータル的に考え、日々の業務に取り組んでおります。今現在9名のスタッフで運営しており、6月からプロジェクトの1つとして新チラシの折り込みが、スタートしました。今回チラシの特徴として、公益社プラン(一般葬)、家族葬のフィリアプランを少しでも、分かりやすい内容で料金体系の透明化を図り、ご葬儀に必要な項目をあらかじめ葬儀基本料に含んだ、パッケージプランとしてコーディネート致しました。おかげさまでメモリアルプラザ公益会館をはじめ、各支店にお問い合わせの件数が増えており事前相談から、アイリス会員様の新規入会も増加しております。

各プロジェクトチームの活動内容は、個々に違いがありますが、チーム全体の想いは同じです。お客様から「ありがとう」の言葉をいただいて、初めて成り立つ仕事であることを自覚しながら、日々精進してまいりますので、今後も各プロジェクトチームの活動動向に着目していただければと思います。

新聞折込でもご覧いただけただけでしょうか? ▶



## 品質向上化チーム

「品質向上化チーム」は公益社をご利用いただくみなさまの安心と信頼を築くため様々な研修会・学習会に取り組んでおります。

毎月、全社員にマナーの学習会をおこない、近年みなさまからお問い合わせいただくことが多くなりました『事前相談』につきましても、ご相談に的確にお応えできるよう、専門的な知識の習得など様々な勉強会を実施、日々精進しております。

ただ、私達の取り組みは簡単に答えが出るものではありません。みなさまにご満足いただけたか…ゴールは無限です。そんな中、みなさまからいただく励まし・感謝のメッセージには皆で喜び、厳しいご意見にはそれを発奮材料としております。

些細なことでも結構ですので、これからもみなさまのご意見をどんどんお寄せください。

そして、みなさまから愛され続ける公益社を目指して頑張っております!

接遇マナー  
正しいおじぎの基本研修をしています ▶



## 公益社のエコ活動

環境に対する取り組みの一つに、全社員での地域清掃活動を実施しています。

## エコフィン「ノア」

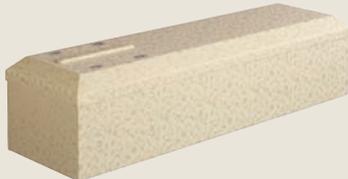
お棺は亡くなられた方の生涯終焉の時を優しく、厳かに包みます。そんなお棺のなかにも地球と環境のことを考えたお棺があります。

このお棺は燃焼時に使用するエネルギーを約50%低減、燃焼時に発生する有毒ガスを3分の1に減らすことに成功しました。

また、この棺  
1本につき10本  
の植林がおこな  
われています。



EMS71576/ISO14001:2004  
環境マネジメントシステム  
ISO14001認証取得



## アイリス広場

みなさまのおたよりから

- Q ペット葬を検討してください。
- A 家族と一緒にいたペットがいなくなるのは本当に悲しいことですね。ペット専用のお棺があり、中にお花、ペットフード、お気に入りの洋服等をいただけていただけます。供養のためのメモリアルプレートなどもご用意できます。
- 🌿 ガーデニング教室に参加しました。すごく楽しかったです。先生の説明もおもしろくてスタッフの皆さんも気持ちよくいい作品ができました。東近江市:Oさん
- 🌿 家族葬セミナーに参加して、非常に参考になりました。分かりやすい説明で納得できました。彦根市:kさん
- 🌿 震災における支援活動のために、いち早く現場に向かわれたことを初めて知りました。改めて感銘を受けました。
- 🌿 震災はニュースで取り上げられる以外に様々な分野で大切な仕事があることを改めて感じました。

本当に多くの方々より災害支援についての激励のおはがきをいただき感謝と感激でいっぱいです。ありがとうございます。

また、定期的開催しておりますセミナーなどにも好評をいただいております。うれしい限りです。初夏のガーデニング教室では、季節の花や香りのいいハーブなどの寄せ植えにチャレンジ!初めての方でも基本から、また、肥料のやり方や虫の対策なども教えていただき豪華な寄せ植え鉢が出来上がりました。大勢の方に参加いただき、笑い声の絶えないとても楽しいひとときでした。これからもみなさまと交流できる時間を大切にしていきたいと思っております。

## ご愛読者プレゼント

会員のみなさまに日頃の感謝の気持ちを込めて

抽選で  
**10**  
名様に  
「胡蝶蘭の鉢植え」プレゼント!

同封の応募ハガキのアンケートにお答えのうえ、必要事項を記入しご応募ください。  
応募締切 平成23年9月20日(火) 必着

★当選された方にはプレゼントお渡し日・場所をご連絡させていただくと共に、次号にて発表させていただきます。

お部屋に  
エレガントな雰囲気を...

育て方

温度と通風 夏●30℃程度まで/冬●13~25℃  
置き場所 夏●屋外または風通しの良い窓際に置く/秋●最低温度が18℃以下になったら、そのまま1か月間は雨の当たらない屋外に出し、1か月後に室内に取り込むと、花芽が出る可能性有り。  
/冬●昼は窓際、夜はカーテンを開けて、ダンボール等に株をいれ、部屋の中央に置く。(冬の夜間の窓際はとても寒いから)  
水やり 夏場●植込材料が乾いたら(目安は3~4日に一度程度)/冬場●約3週間に一度  
成長期 4月下旬~10月初旬  
休眠期 10月下旬~3月下旬



先端まで開花し半分ほど枯れてきたら、花茎を根元から切り落として、あとは切花として楽しみましょう。花茎を残したままだとそちらに株の栄養が取られ、翌年花を咲かせるだけの力が無くなってしまふからです。

花茎を切り落としても、翌年は別の場所から新しい花茎が伸びてきます。

vol.38「夏のこけ玉寄せ植え」プレゼントご当選者

- 彦根市/松本良蔵様・星子千秋様・山田恵美子様・上野邦弘様・川崎隆人様
- 東近江市/川嶋利男様・松永義秀様・山川富三様
- 近江八幡市/江守真理子様・平野生子様

# 「ふるさとに帰る」

滋賀県立大学地域づくり教育研究センター  
研究員 上田 洋平

盆正月というのは、かつては先祖の霊が子孫たちの元につかま帰ってきて、交歓し、供養を受け、惜しまれながら去るのが習わしであった。

それが随分以前から様変わりして、最近では、主客は逆になったようである。すなわち、ふるさとで待っている祖霊とその守り人があり、その祖霊の元に子孫たちが去る、というふうには。

「ニュータウン」と呼ばれるような街では、そのできはじめのころ、住民たちがそれぞれのふるさとへ帰省するため、盆正月には俄かに人気のない「ゴーストタウン」になってしまったのだとか。

「ニュータウン」がだんだん「オールドタウン」になると、今度はそこに住む父母祖父母のもとへ子や孫が帰ってくるようになり、つまり「ニュータウン」をふるさととする世代も相当な数になったようである。

しかし「ニュータウン」には住民共同の墓地まではないから、春秋の彼岸も含めて、祖霊と子孫との往来にもいよいよ工夫が必要になるのではなかろうか。

そんなことを思案していると「兎追いしかの山」で始まる唱歌「ふるさと」が思い出された。日本人の心の原風景を情感豊かに表して誰の耳にも親しい歌。

しかしこれは実に「ふるさとを捨てた者の歌」なのである。

この歌の三番は「志を果たしていつの日にか帰らん」と歌う。これは、近代化の旗印の下、立身出世の夢を抱いて、ふるさとを捨て、都市に出て行った者の心情を歌ったのである。そして当時立身出世とは、国の発展と軌を一にする信じられていた。「志を果たして帰る」というのも、飽くまで都市で功成り名を遂げのち故郷に錦を飾るという意味で、骨を埋めに帰るというようなことではなかった。

そして、そのような者の艱難辛苦の上に、今日の日本は築かれたのである。近代化を成し遂げ、欧米列強を凌ぐ地位を獲得したのである。いわばあの日の「志を果たした」のである。「いつの日にか帰らん」と心に誓った、その日が訪れたのである。

だが、帰るべき時になって、帰るべきふるさとが、未曾有の危機に見舞われた。震災である。そして「フクシマ」である。

発展のための方便として、ふるさとを捨て、都市に注力してきた。ふるさとにはむしろ、我慢と忍従を強いてきた。「やっと帰れる」「さあ、帰ろう」と立ち上がりかけたその時、ふるすとは、自然の災厄によって破壊され、さらにむごいことに、われわれの発展の礎であったはずの科学技術と経済主義とが、災厄に追い打ちをかけてしまった。事はしかし「フクシマ」だけの話ではない。かの地は偶々象徴になったに過ぎない。

ふるさとを捨て、ふるすとは我慢と危険を強いて邁進してきた方便を指弾して、今日の悲惨はその報いだと皮肉ることもできよう。だがその前に、そしてまだ間に合うのなら、あの歌「ふるさと」を、このように歌い替えてみたいと思う。

「志を果たしに、いまこそ、ふるさとに帰ろう」と。

## 大村 雄一

私が入社して一番に感じたのは、思っていたよりも覚えなければいけないことが多いということ、日々奮闘中です。その中でも「納棺」という儀式に始めて立ち会った時は驚きでした。私の祖父母が亡くなった時は納棺はなかったのです。(私の妹が看護師をしているので納棺のかわりを簡単にしたのです。)当社の納棺スタッフが丁寧に故人様のお着替えをし、髪をとかし、爪を切り、お化粧をさせていただき…感動しました。これからはいろいろな場面に遭遇すると思いますが、ひとつひとつを自分のものにできるよう頑張っていきます。

## 安澤 豊

入社した頃は、お通夜はなぜするのか、お葬式はなぜするのかも理解していませんでした。宿直業務では、初めての病院へのお迎えの電話対応で、お聞きする順番を間違えたり、いつ電話がなるかが気になって一睡もできない日々が今も続いています。自宅のご葬儀では、テントの張り方やサイズが覚えられず、また、次に何をするのか分かっていないのが現状です。悔しいです!! 日々の努力を惜しまず確実に一歩一歩自分のものにして自分を成長させていきます。

## 新入社員 奮闘記



## 渡邊 和樹

駐車場で誘導係をしている時のことです。車を駐車された場所から公益会館の入り口までを丁寧に案内すると「分かっているからいいですよ」とのこと。案内が少ししつこかったかなあ?と細かな説明をするのをやめてしまいました。今度は上司に「お客様が式場を間違われたぞ!しっかり案内しなさい」と注意されました。人のきもちや求めていることは、ひとりひとり違います。そういった細かな部分を感じ取ることができてこそ、私たちに求められる心のもったサービスがはじめて提供できるのだとつくづく感じています。

## 中嶋 隆之

新入社員と言っても「40歳代」。現在は施行担当の先輩に同行しながら、葬儀全般にわたっての実践の毎日です。ある日、火葬場へ向かう霊柩車の中で、最愛の息子さんを亡くされた若いお母さんが「火葬場へ行かないで、ひき返してください」と運転中の先輩に涙ながらに訴えられたそうです。「君ならどう答えますか?」の衝撃的な質問に言葉を失いました。「死に対する思いを厳粛に受け止め真摯に対応出来るスタッフになりたい」と思います。微力ながら地域のみなさまに満足していただけるサービスを提供できるように努力いたします。

# 虹

## アイリスクラス 提携店ご案内

会員のみなさまの暮らしに役立つお店を紹介するコーナーです。詳しくは各店にお問い合わせください。

会員特典 観葉植物お持ち帰り 10% OFF



草花をはじめ山野草から植木まで幅広く取り揃えております。また、毎月季節の寄せ植えをお届けするお花の宅配便や、樹木の剪定や肥料やりなど庭の年間管理も承ります。お気軽にご相談ください。

### グリーン永井

〒522-0041 彦根市平田町390  
tel.0749-23-8395

新規提携店

会員特典 お食事代おひとり様 1,000円以上につき 5% 割引



料理はできるかぎり手づくりをモットーに、リーズナブルな価格で地元のお客さまに愛される店を目指しています。ランチメニューでは、ハンバーグやチキン料理、オムライスがおすすです。

### カフェグレコ

〒522-0041 彦根市平田町673-1  
tel.0749-26-4168

会員特典 ご来店お食事代から 5% 割引



彦根で40年以上前から続く割烹です。新鮮な魚介類をはじめ、夏はうなぎ、冬はモロコの炭火焼きなど琵琶湖の幸をお楽しみいただけます。また、冠婚葬祭の仕出し・会席料理も承っております。

### 割烹 うめだ

〒523-0088 彦根市銀座町1-18  
tel.0749-23-0157

# 公益社の家族葬「フィリア」

近年、家族葬ということばをよく聞くようになりました。公益社にも家族葬について多くのお問い合わせをいただいております。

一般的に家族葬とは、家族だけで行うご葬儀やご親族およびごく親しいご友人だけで行う小規模なご葬儀のことをいいます。

単に小規模で費用が安いというイメージより、ご家族の絆を大切にされた温かなお見送りのかたちとして認識されつつあります。

## 家族葬の特徴

少人数で親しい方だけでご葬儀を行うため、ご会葬の方々に配慮する必要がなく、ゆったりとした雰囲気の中でお別れができます。そのため、ご家族の精神的、肉体的にも負担が軽減され、故人との最後の別れの時間をゆっくりとお過ごしいただけます。

家族葬を望まれる理由として、社会的な葬儀のかたちから、家族でゆっくりとお別れがしたいという願いが見えます。

具体的には、立派な式は必要ないが、お世話になった方に礼をつくる式や、参列者が思い出話を花を咲かせるような式にしたい……など、家族によってさまざまな想いがあります。

私たち公益社の家族葬プラン「フィリア」は、そんなご家族の思いをかたちにした専用のセットプランです。葬儀費用に関する不安がないよう、通常追加費用などで発生する「料理」「粗供養品」等も組み込んだ総額セットプランになっています。安心してご利用いただけます。

最近では初七日法要を当日に済まされることが多くなっていますが、アイリスクラブ会員様には、その費用がサービスされるという特典もございます。私たち公益社が心をこめてお手伝いさせていただきます。

## 家族葬で注意しなければいけないこと

家族葬をされたご家族から、次のようなお話をうかがいました。「葬儀が終わってから、訃報を聞いた人たちが週末ごとに弔問されその対応に疲れてしまいました。」「親戚から、参列者を呼ばないことはほとんどない、と反対されトラブルになりました。」「後日、訃報を知った方に

### スタンダードプラン

【少し豪華な家族葬】



4種からお選びいただけます



桐棺(総檜) 杉棺(香檜)  
桐棺(りんどう) 桐棺(桐)



仏衣 (カラー) (黒) 遺影写真



霊柩車 (洋型/宮型)



造夜料理 (魚介系・イードブル) 仕上げ料理 (魚系)



粗供養品 会葬礼状



香箱・位牌 枕・後飾り段 (高脚車)



受付設備

基本セット	洋型標準 棺(桐棺/杉棺) 遺影写真(カラー/黒) 受付設備	一式	車 骨箱・位牌	両 仏衣	霊柩車(洋型/宮型)	会館→火葬場 一式
ドライアイス		2日分	納棺の儀	ゴザマシープ		
粗供養品	造夜・会葬(¥600円)	各30名様分	枕飾り	高級褥座		
会葬礼状		30名様分	法要セット			
飲食	造夜料理 (¥4,000円) 仕上げ料理 (¥3,500円)	寿司盛2種 オードブル1皿 10名様分	会館使用料	法衣・色別式		
			写真	祭壇・集合		2カット
			スタッフ	式典スタッフ		1名
				司会進行		1名

※葬儀、葬儀以外のサービスは、別途お見積りにより異なります。

教えてほしかったといわれました。」「呼ばないつもりだったが、式の日程を知った人たちが来られ、その対応に追われました。」「参列者が少ないので香典も少なく、結果的に持ち出しの金額が多くなりました。」

このようなことを避けるためにも、家族葬を行う際は、逝去の知らせと共に参列を遠慮いただく旨を伝えることが必要です。

家族葬についての不安がありましたら、私たち公益社にお問い合わせください。私たちの経験を踏まえご質問にお答えいたします。

## 家族葬セミナーを開催いたしました

6/5 近江八幡公益会館・8/3 八日市公益会館

去る6月5日近江八幡公益会館・8月3日八日市公益会館において開催いたしました「家族葬セミナー」には、両開催日とも多数のご参加をいただきました。特に八日市公益会館では定員をオーバーするほどのご参加をいただきました。

はじめに公益社の葬儀に対する取り組みや、会社の概要説明のあと、家族葬についての説明を約1時間余りさせていただきました。私どもが考える「家族葬」のかたちを重点に、長所や注意しなければならない点など詳しく説明させていただきました。

セミナー終了後に多くの方からご質問があり個々に対応させていただき「家族葬での気を付けることなどが分かってよかった」「堅苦しくなく気楽に相談できてよかった」とみなさま安心してお帰りになりました。今後も葬儀に関するセミナーを企画しておりますので是非ご参加ください。



## 地域の方とのふれあい 座談会

6/16 彦根市内公民館

今回の座談会は、できるだけ地域のみなさまに、当社の取り組みを知っていただけるような場にしたいと思い、「伝え方」や「進行の仕方」を工夫しながら進めさせていただきました。

お話をしていく中で、昔あった古い火葬場での話や、幼少期にはよく葬列に出くわし、にぎやかな道具を持って墓場まで行かれていた話など、思い出話が盛り上がる一場面もありました。

ご参加くださったみなさま方も「葬儀のかたちがずいぶんと変わってきたこと」、「お葬式ができることが幸せである」といった事を個々に感じておられ、最後には「その節は、公益社さん、お願いします」との一言で座談会を締めくらせていただきました。

地域の方々とお話しさせていただき、参加メンバー一同、地域のみなさまの思いについて知り、勉強をさせていただく機会となりました。



公益社は、24時間365日いつでも対応いたします

株式会社 公益社 本社：〒522-0054 滋賀県彦根市西今町939番地  
TEL.0749(22)5000(代) FAX.0749(22)0042

ご葬儀のご相談・ご依頼・資料のご請求は

☎ 0120-61-4000